



Toko Metal

Multi Material Recycler

東港金属株式会社

環境報告書 2007





目次

ページ

ごあいさつ	2
会社概要	3
基本理念	5
環境方針	6
環境マネジメント体制	7
中期環境保全計画	9
事業活動における環境負荷低減への取り組み	10
リサイクルフロー	11
事業活動における環境負荷の全体像	12
法的及びその他の要求事項	13
環境コミュニケーション	15
トピックス	16
ガイドライン対照表	17
第三者審査報告書	18

報告書作成に当たって

このたび、日常の業務内容をそのまま公表することによって、ステークホルダーの皆様方に、業務活動の透明性、信頼性を評価いただき、当社の環境の取り組み姿勢をご理解いただきたく、環境報告書を発行いたしました。

この環境報告書の対象期間は、当社の第62期（2006年7月～2007年6月）です。

また、この環境報告書の対象範囲は本社と本社工場としております。東京事務所と千葉工場は次年度より対象の予定です。

なお、この環境報告書は環境省、環境報告ガイドライン（2007）及び東京都環境局、環境報告書ガイドライン（2005年度版）を参考にして作成しました。

発行日：2007年12月

次回発行予定：2008年12月





東港金属株式会社
代表取締役社長

福田 隆

資源循環を心に期して

21世紀は環境が主テーマの世紀と言われながら、地球温暖化による異常気象のために北極熊(シロクマ)を代表とする絶滅危惧種が増え、海面水位の上昇で南太平洋に浮かぶサンゴ礁の島国ツバルは、水没寸前の危機にあると言われています。

また一方では、これまでの大量生産、大量廃棄による鉄、アルミをはじめとする天然資源の枯渇が懸念されており、企業のみならず個人生活においても、地球資源と環境維持のための努力が求められ「もったいない」が世界共通語になろうとしています。

このような中で、弊社は1902年(明治35年)創業以来、105年間に亘る金属加工と産業廃棄物中間処理などのリサイクル業務に携わっておりますが、この永年の弊社の事業活動そのものが、環境問題解決のキーワードである資源循環(Reduce, Reuse, Recycle)を支えるものであるという信条で、「循環型社会」構築の一翼を担えることに誇りを持っております。

都心からのアクセスが良い大田区京浜島にヤードを所有し、さらに千葉県富津市の新工場を2008年春から本格操業いたします。また、お客様の多様なニーズにお応えするため、多種多様な品目を取り扱っており、通常勤務時間外や土日祝祭日の

引き取りなど、サービス面を重視して、お客様にとってより便利であることを念頭に置いております。

事業活動に伴う環境負荷の低減対策としては、廃棄物(資源物)収集過程や、リサイクル過程での全体処理量に係る二酸化炭素排出量を少なくするべく、消費エネルギー削減に力を入れております。事業活動の主となるところの資源物のリサイクル工程機材は、改良を重ねて再資源化率を向上させて、今後とも継続的に環境保全を目指す工夫、改善を続け、お客様から信頼されるリサイクルパートナーとなる努力をして参ります。

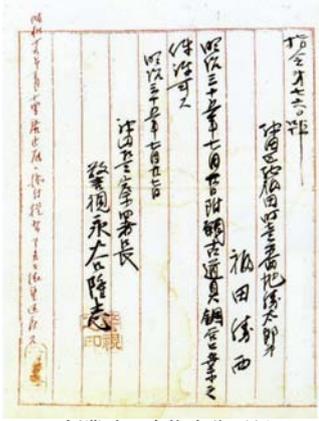
廃棄物処理業界は、本来は動脈産業である製造業界等と一体をなして貴重な地球資源を循環させていくという、重大な任務を負う業界であると考えております。弊社は、その置かれている社会的責任を自覚し、2006年7月にISO14001の認証を取得いたしました。その環境方針に基づき、すべての従業員が一丸となって環境保全対策を実施し、積極的に情報開示をしていくことによって企業活動の透明性をはかり、皆様から信頼され愛される事業者となることを目指しております。

このたび、初めて環境報告書という形で、弊社の環境への取り組みを中心に日常の業務内容を公表いたします。

皆様からのご意見ご感想、そしてご指導を頂戴できれば幸いです。

2007年12月

会社概要



創業時の古物商許可証

社名	東港金属株式会社 Toko Metal Co.Ltd
代表者	代表取締役社長 福田 隆
設立	1902年(明治35年)7月
資本金	10,000万円
従業員数	60名(派遣社員を含む 2007年4月1日現在)
年商	70.9億円(平成18年6月期)

創業100年の歴史

明治35年より積み上げてきた経験と実績

原料再生のエキスパート

金属・プラスチックなど多品目の原料に対応

サービス

夜間・早朝・休日・時間外、柔軟な受入体制

本社

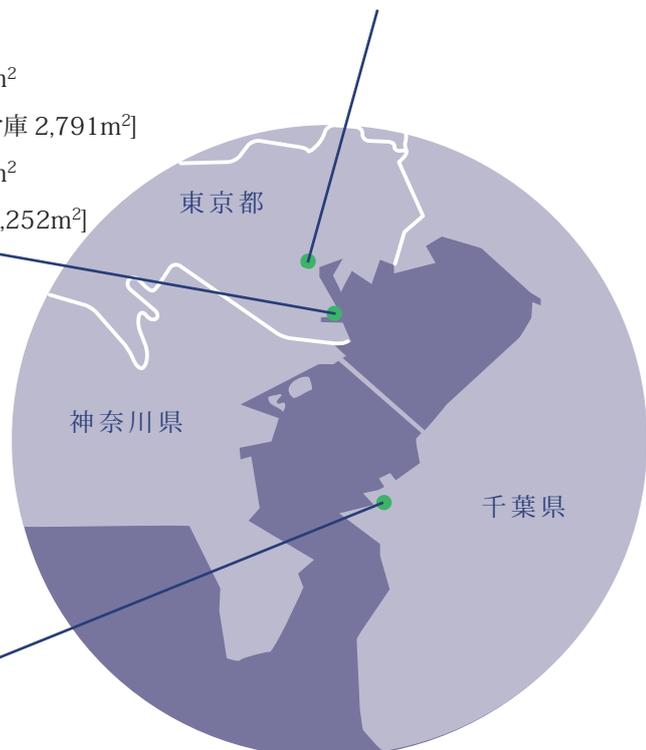
〒143-0003
東京都大田区京浜島2丁目20番4号
Tel: 03-3790-1751 Fax: 03-3790-1755

(本社工場概要)

第一ヤード敷地 4,151m²
[事務所 131m²工場倉庫 2,791m²]
第二ヤード敷地 1,996m²
[事務所・工場倉庫 1,252m²]

東京事務所

〒105-0014
東京都港区芝2丁目7番2号芝園ビル4F
Tel: 03-5730-0880(代) Fax: 03-5730-0440



千葉工場

〒293-0011
千葉県富津市新富52-1
Tel: 0439-80-4545(代) Fax: 0439-80-4646

(千葉工場概要)

土地: 41,573.24m²
工場棟: 3,422.77m²
事務・厚生棟: 302.72m²

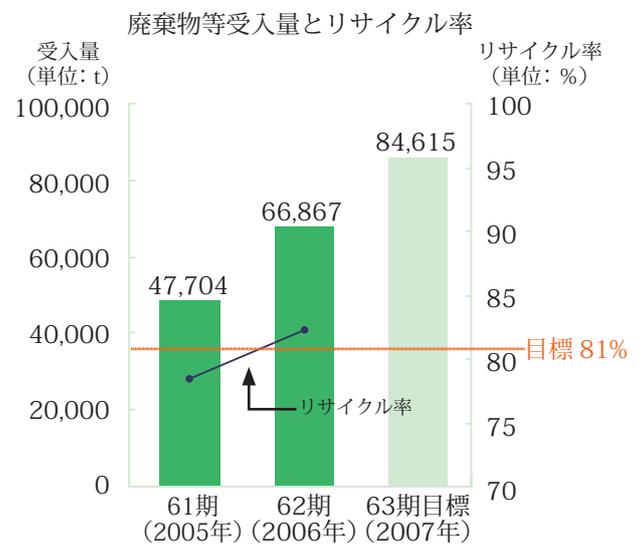
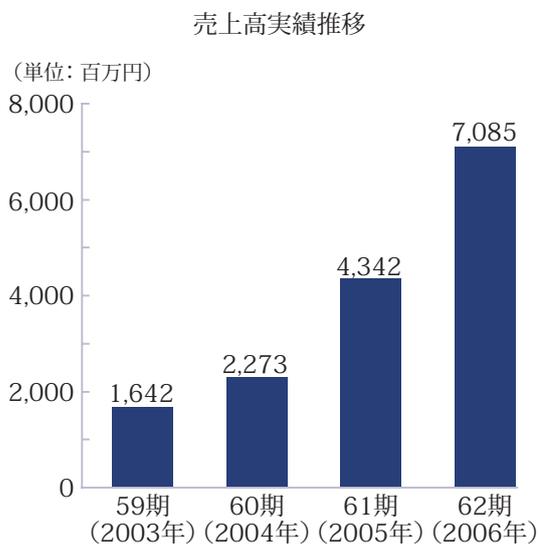


事業概要

- 金属スクラップ全般に関する業務(国内 / 輸出入)
- プラスチックの各種リサイクル
- 産業廃棄物の収集、運搬及び中間処理業、リサイクル
- 産業廃棄物中間処理許可【東京都第 13-20-018874号】
- 産業廃棄物収集運搬及び保管、積み替え【東京都第 13-10-018874号】
神奈川県横浜市・川崎市・横須賀市、埼玉県、千葉県千葉市、他
- 家電リサイクル法 Aグループ指定引取場所
- その他



売上・受入量・リサイクル率の実績



当社の事業活動は、地球環境保全活動そのものです。

創業以来、培ってきた「活かす」を経営の基本理念とし、
循環型社会構築への貢献ができる総合リサイクル業を構築してまいりました。

これからも、さらにリサイクル率を向上させる技術開発を行い、
資源循環型事業を推進して参ります。

人を活かします

排出事業者様をはじめ、すべてのステークホルダーのご意見を真摯に受け止め、大切に活かして参ります。社内であっては、明るい社風を作り、従業員の労働衛生・健康管理に考慮し、社員それぞれの力を最大限に活かします。

地球資源を活かします

処理をお引き受けする排出物を「資源」と捉え、多年に亘り培ってきた丁寧な分別、切断等の技術を使い、リサイクル率を高め、再び価値ある地球循環資源として活かします。

社会に活かします

企業市民としての責任を持ち、地域との共生を大切にして、コミュニケーションを図りつつ、持てる力を社会の発展に活かします。

沿革とトピックス

1902年(明治 35年) 7月	創業者福田勝西が、東京市神田に伸銅品と非鉄金属地金の問屋を開業、終戦後、店を芝金杉に移す。
1947年(昭和 22年) 12月	会社組織にし、製品の問屋業を株式会社福田地銅店が、地金の問屋業を東港金属株式会社が扱うこととなった。
1960年(昭和 35年) 3月	東京精錬株式会社を設立、銅合金の精錬及びインゴット製造を行う。
1978年(昭和 53年) 10月	栗山鑄造株式会社及び株式会社アイアイデーの両社を合併し、東京精錬株式会社の社名を東京銅基合金工業株式会社と商号変更した。
1997年(平成 9年) 11月	精錬部門と営業部門が一体化し、東港金属株式会社が東京銅基合金工業株式会社を吸収合併し、東港金属株式会社となる。
2001年(平成 13年) 4月	家電リサイクル法施行に基づき指定引取場所となる。
2002年(平成 14年) 11月	東京都とエコトライ協定を締結。
2003年(平成 15年) 10月	家電リサイクル指定引取場所及びスクラップ取り扱い増を目的とした第二ヤードを開設する。
2004年(平成 16年) 12月	OA解体専門ヤードの開設及びプラスチック用ベラー設置により、リサイクルへの取り組みが一段と推進される。
2006年(平成 18年) 7月	ISO14001認証取得。
2007年(平成 19年) 4月	東京都港区芝に東京事務所を開設し、営業部門及び事務部門の一部を移転。



環境方針

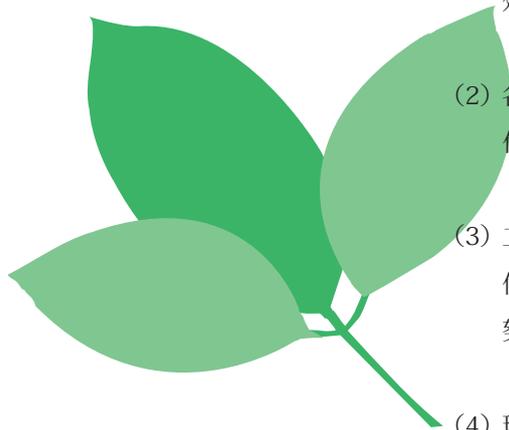
当社では、当社の基本理念に基づき、地球環境保全の方針を掲げ、すべての従業員が、その達成に向けて努めております。

基本理念

東港金属株式会社は、資源循環型社会の一翼を担う非鉄金属加工処理業ならびに産業廃棄物の収集運搬及び中間処理業等の事業を通じて、環境負荷の少ないリサイクルに正面から取り組み、社会に貢献できうる企業を目指し、従業員が一丸となり環境保全対策を実施し、地球環境保全のために尽くします。

行動指針

- 1 当社の事業活動、製品及びサービスに関わる環境側面を常に認識し、汚染の予防に努めるとともに環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
- 2 当社の環境側面に関係して適用可能な法的要求事項、及び自主的に受入を決めたその他の要求事項を順守するために自主基準を設け、管理し、環境保全水準の向上を図ります。
- 3 当社が行う事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響の中で、以下の項目について重点テーマとして改善活動を推進します。
 - (1) 取扱商品の入荷量を拡大することにより、資源のリサイクル率向上を目指し天然資源の枯渇の抑制に貢献するとともに、最終処分量の削減に努めます。
 - (2) 各種車輛、重機等に使用する燃料の削減を図り、地球温暖化と化石燃料資源の枯渇の抑制に努めます。
 - (3) 工場内のプラント設備、事務所の照明・空調等に使用する電力使用量の削減を図り、地球温暖化と化石燃料資源の枯渇抑制に努めます。
 - (4) 環境保全の質的向上を図り汚染の予防と周辺地域環境の向上に努めます。
 - (5) 資源の有効活用のため、コピー用紙使用量の削減に努めます。

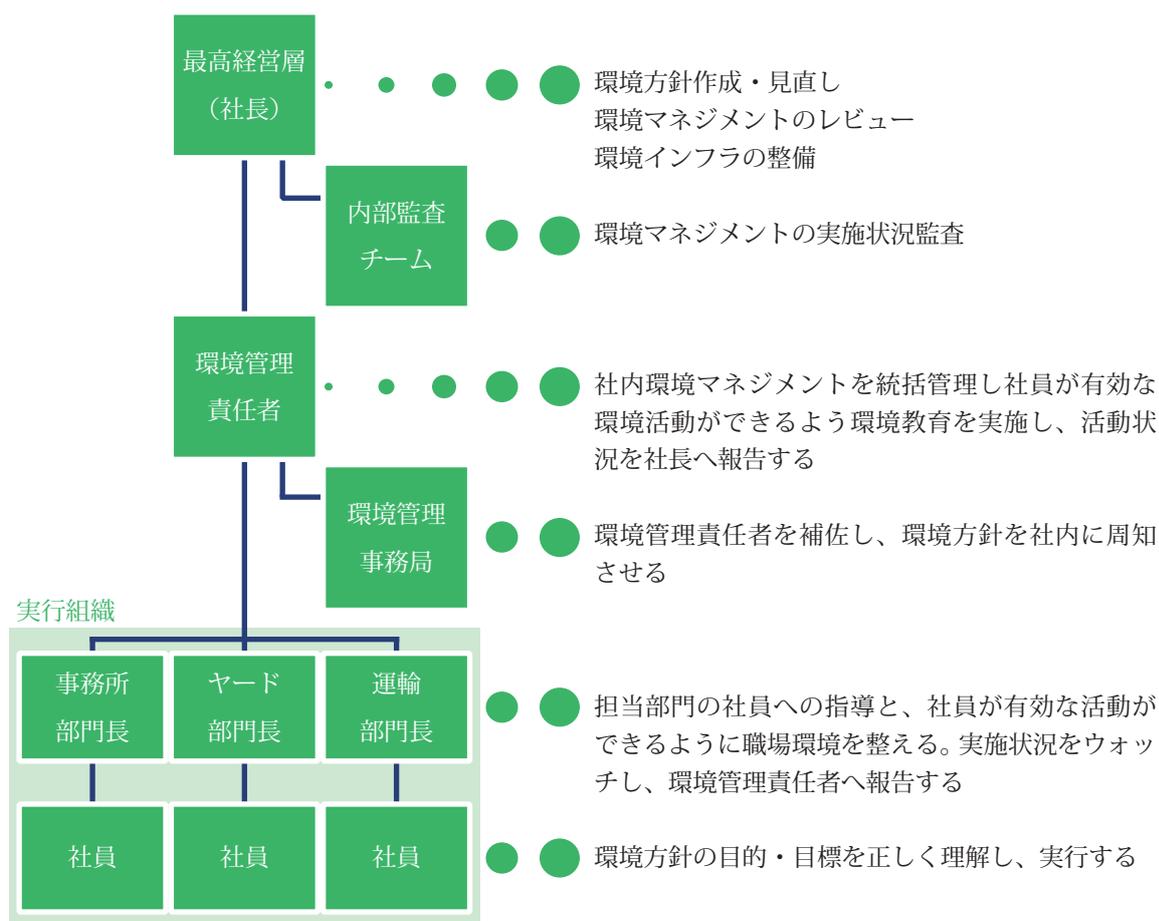


2006年 4月 1日
東港金属株式会社
代表取締役 福田 隆

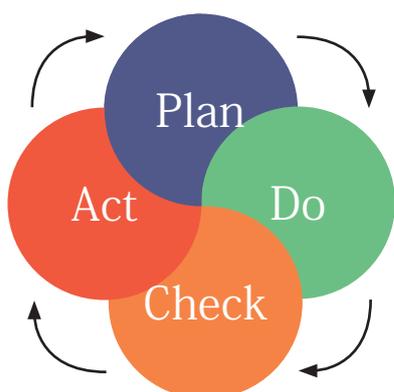
環境マネジメント体制

当社は、社長をトップとした環境マネジメント体制で、
地球環境保全の計画を PDCA サイクルを活用し推進しております。

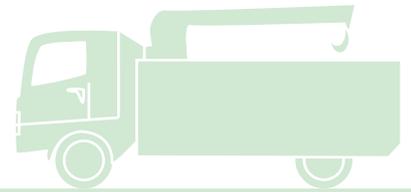
環境マネジメント体制



PDCA サイクル



- Plan** 中期計画の作成
中期計画に基づく期間計画の作成
- Do** 期間計画に基づいた環境マネジメントの実行
- Check** 監査の実施
期間計画のレビューと業績評価
- Act** トップマネジメントによるレビュー



環境マネジメントシステム ISO14001 取得

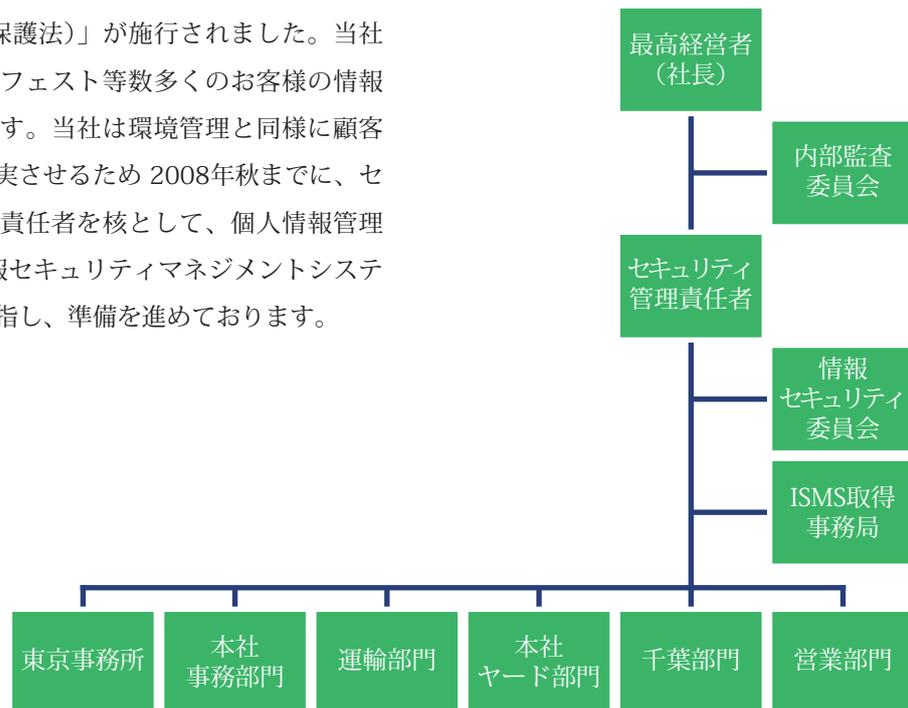
当社は、2006年 7月に、事業活動によって生じる環境への負荷の低減を、持続的に実施するシステムを構築するための国際規格 ISO14001を取得いたしました。その環境方針に基づき、環境負荷の少ないリサイクル事業に正面から取り組み、従業員が一丸となり社会に貢献できうる企業を目指し、尽くします。

なお、当社の「環境方針」を排出先等の取引業者へ伝達し、当社の環境活動への理解とご協力をお願いしております。



情報セキュリティマネジメントシステム

平成 17年 4月 1日から「個人情報の保護に関する法律(個人情報保護法)」が施行されました。当社は、廃棄物マニフェスト等数多くのお客様の情報を扱っております。当社は環境管理と同様に顧客情報の管理を充実させるため 2008年秋までに、セキュリティ管理責任者を核として、個人情報管理を包含する「情報セキュリティマネジメントシステム」の導入を目指し、準備を進めております。



情報セキュリティマネジメント推進体制

中期環境保全計画

当社が行う事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響の中で、環境保全計画として省エネ、省資源化の達成すべき目標を設定しました。目標期を第 63期 (2007年 7月～ 2008年 6月) としています。重点テーマとして以下の項目で 62期は改善活動を推進しました。

62期中期環境保全計画



推進項目	施策	目標	達成値	達成度	
		目標値		達成	未達
全社	資源受入量拡大 (1) 仕入れ価格の適正化 (2) 商品の在庫期間圧縮 (処理能力向上) (3) 受入ヤードの整備 (処理能力向上) (4) 仕入先の拡大(顧客拡大)	22,360 t以上の達成	34,051 t		対目標値 11,691 t (52.3%) 拡大達成
		対 60期実績値 14,807 tの 51%アップ			
	電力使用量削減*1 (1) 破碎機の効率的運転 (2) 電気使用機械の効率的運転 (3) エアコンの適正温度運転 (4) メインスイッチのこまめな切断	年度末 14,111kWh/千 t以下の達成 対 61期実績値 16,394kWh/千 tの 13.9%改善	年度末 12,120kWh/千 t		対目標値 1,991kWh/千 t (14.1%) 削減達成
最終処分量削減*2 (1) サーマルリサイクル処分先の拡大 (最終処分の削減) (2) 選別ラインの導入 (3) 客先への選別徹底の提案 (4) 再生処理品の拡大	年度末 80%以上の達成	リサイクル率 82.7%		対目標値 2.7ポイント 改善達成	
事務・ヤード	燃料使用量削減*3 (1) アイドリングストップの励行 (2) アクセルの吹かし過ぎ防止 (3) 効率的な積み降ろし・運搬 (4) 省エネ車の導入 (5) 車輛の定期点検・整備	年度末 3,356 l/千 t以下の達成	年度末 2,960 l/千 t		対目標値 396 l/千 t (11.8%) 削減達成
		対 61期実績値 3,390 l/千 tの 1%改善			
事務	コピー用紙使用量削減*4 (1) 裏紙の使用徹底 (2) 不要資料の作成削減 (3) 配布資料及び配布先の適正化 (4) メール・電子化の推進 (5) 棚卸し不用品資料の活用	年度末 3,037枚/千 t以下の達成 61期実績値 3,131枚/千 tの 3%改善	年度末 2,614枚/千 t		対目標値 423枚/千 t (13.9%) 削減達成

* 1 電力使用量原単位=電力使用量(kWh) / 製品出荷量(千 t)
 * 2 リサイクル率(%)=[受入量(t) - 最終処分(理立)量(t) / 受入量(t)] × 100
 * 3 燃料使用量原単位=燃料使用量(l) / [製品入荷量(千 t) + 出荷量(千 t)]
 * 4 コピー用紙使用量原単位=コピー用紙購入枚数(枚) / [製品入荷量(千 t) + 出荷量(千 t)]

事業活動における環境負荷低減への取り組み

私たちの事業活動は環境負荷低減活動そのものだと考えています。



大型重機

各大型重機の導入により、荷降ろし、積み込み作業等の時間短縮が可能。

当社は、お客様から排出される産業廃棄物のほとんど(廃プラスチック、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、木くず、紙くず、繊維くず)をお引き受けし、対応しております。家電リサイクル Aグループの指定引取場所であり、また、第一種フロン類回収業者登録もしております。収集・運搬、選別作業も当社で引き受けますので、お客様の手を煩わせることなく廃棄物処理を行える体制を整えました。

非鉄金属のスクラップ問屋から発展したノウハウを活かし、可能な限りマテリアルリサイクル(再生原料化)を目指しています。また、サーマルリサイクルへの取り組みも積極的に行い、セメント会社向けにサーマルリサイクル用廃プラ類を出荷しています。

2004年には、O A解体専門ヤードを開設し、併せてストックヤードを拡大しましたので、少ロットのプラスチックリサイクルも可能となり、リサイクル率が向上しました。また、サーマル及びマテリアルリサイクルへの更なる取り組みを図るため、圧縮梱包機(ベラー)を導入いたしました。



マルチ解体機

さまざまな機械、家電製品、車両などを分解・解体する専門機。鉄、非鉄、プラスチック、その他の仕分けに大きな力を発揮。



ギロチン

鉄から廃棄物まで高速で切断が可能。



ベラー

プラスチック等を圧縮梱包し輸送率を向上。



一軸式破砕機

さまざまなリサイクルを実現する破砕機。



磁力選別機

鉄と非鉄を分別。



金属用破砕機

処理能力の大きい破砕機。

リサイクルフロー

収集・運搬

多品目取り扱い

従来、種類別・マテリアル別に専門業者に振り分けて搬入していた廃棄物、混合物、有価金属などを、窓口ひとつでワンストップのリサイクル処理が可能。多様な設備と処理能力で、業務効率と費用の最適化を実現。

※一般廃棄物、医療系、原子力危険物、液状物は除く。
※金属は有価物として買取可能。

廃家電 4品目
エアコン・テレビ・洗濯機・冷蔵庫選別→集積→搬出
(メーカー指定リサイクル工場へ)



電線



ペットボトル



OA機器



混合プラスチック



自転車



鉄くず

選別

徹底した選別

大型廃棄物から鉄と非鉄、プラスチックまで分解・選別することができる〔マルチ解体機〕〔大型磁力選別機〕を保有。併せて手作業による徹底した分解、仕分けを実践した後、ヤード内にある仕分け用ピットで細分管理。



大型仕分ピット



解体



選別ライン



手解体ライン

中間処理

破碎・切断

国内初、最新鋭高速切断機〔ギロチンシャー〕の導入をはじめ、複数の破碎機やジャンボプレスベラー、天井クレーンを刷新し、作業効率と処理スピードの向上を実現した。さらに、ヤード内のレイアウトに配慮し、作業のオートメーション化を促進。



切断



破碎



プレス



ベラー

リサイクル

再原料化・再燃料化

プラスチックフレーク、プラスチックペール、銅系再生合金、電線ナゲット銅、再生銅原料、木くずチップ、古紙原料、カレット、プラスチック燃料など、可能な限り再生原料化(マテリアルリサイクル)と、再生燃料化(サーマルリサイクル)を実現。



特号銅線(99.99%)



再生プラ原料(PET)



基板



燃料プラスチック



アルミ



製鋼原料(甲山)

事業活動における環境負荷の全体像



事業においては、常に資源のリサイクル率や、再資源化の向上を図るための活動を行いますが、一方では環境に負荷を与えることも避けられません。

そのような状況の中でどんなに小さい作業でも、どうしたら環境負荷を低減しながら処理できるかを常に考え、資源の有効活用に取り組んでいます。

第62期(2006年7月～2007年6月)の主な環境負荷は下図の通りです。



リサイクル率 82.7%

注) インプット(お客様からの受入量 t)と、アウトプット(有価物量+再資源化量+焼却、埋立量 t)の重量に差が出ておりますが、これは、アウトプット量の一部が容積として搬入されるため、重量換算した際に相違が出ております。

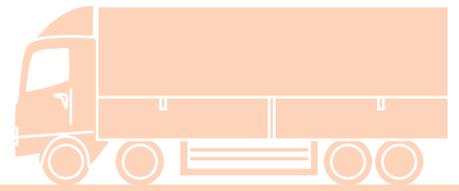
法的及びその他の要求事項

当社の事業と関連する主な法規制は以下の通りです。

第 62期(2006年 7月～ 2007年 6月) は行政より指導、勧告等を受ける違反はありませんでした。

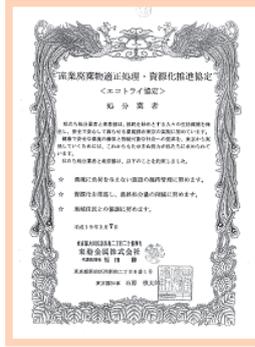
また、近隣住民からの苦情もありませんでした。

環境側面		法、条例等	要求事項(当社該当主要項目のみ)	該当施設等	該当部署	必要資格
自動車運行	運搬車輛 自家用車	道路交通法	①自動車免許、速度制限、積載制限	運搬車輛 自家用車	運搬班	大型・普通 免許
		NOx・PM法	①規制対応車種②PM減少装置の 取り付け	-	運搬班	-
[業務] 廃棄物の受入 収集運搬及び 処分業	金属屑 廃プラスチック類 ガラス屑 陶磁器屑	廃棄物処理法 エコライ協 定(東京都)	①廃棄物再生業/廃棄物の収集運 搬及び処分業の許可 ②廃棄物の保管施設への掲示板の 設置 ③委託基準の順守 ④マニフェストの使用及び返却等 の管理 ⑤廃棄物処理責任者の設置 ⑥二社契約;許可番号、事業の範囲、 有効、期限、処理能力、重量、 単価等の記載 ⑦産廃最終処分業者の処分場視察 ⑧環境に負荷を与えない施設の維 持管理 ⑨資源化を推進し、最終処分量の 削減 ⑩地域住民との協調	業務として被 処理 物の受け入れ 業務全般から の排出	全体	収集運搬業 中間処理業 古物商
[事業者] 廃棄物の排出	産業廃棄物の 排出					
[業務] 廃家電の受入	テレビ エアコン 冷蔵庫 洗濯機	家電リサイク ル法	①再商品化工場へ ②管理票(家電リサイクル券)	テレビ エアコン 冷蔵庫 洗濯機の 指定集積所	事務班 ヤード班	-
[事業者] 廃家電の排出	テレビ エアコン 冷蔵庫 洗濯機 パソコン他				事務班	-
トラック スケールの使用	トラックス ケール	計量法	トラックスケール台貫計量誤差検定 1回/2年検査	トラックス ケール(20t・ 40t・50t)	事務班	-
火災の発生	指定可燃物	消防法	指定可燃物貯蔵量調査	ヤード班	ヤード班	-
フロン類の回収	業務用空調機 ・業務用冷蔵 庫からフロン 回収	フロン類回収 破壊法	東京都知事による登録	ヤード班	ヤード班	第一種フロン類 回収業者登録
PCB入りコンデ ンサーの保管	PCB入りコン デンサー	PCB廃棄物特 別措置法	PCB廃棄物の適正な保管 保管状況の東京都への報告	ヤード倉庫	管理責任者	-
材料及びエネ ルギーの使用 を物品の購入 時に考慮	物品の購入	グリーン購入 法	グリーン調達を推進し、環境に与 える負荷を軽減する	事務班	事務班	-



エコトライ協定

当社は、処分業者として平成14年11月1日に東京都とエコトライ協定(産業廃棄物適正処理・資源化推進協定)を締結し、率先努力をしています。平成17年4月に再締結いたしました。



エコトライ協定とは、産業廃棄物の適正処理の徹底と資源化の促進を図るため、東京都と法令以上の取り組みを約束するもので、事業者は産業廃棄物処理による環境への負荷を低減し、また、率先して取り組み状況を公表することにより、事業者・都民・行政が問題解決に向けて協力していく環境を作ることが目的としています。

従業員の衛生と健康のための施設

当社は従業員の衛生と健康管理のため、休憩室を兼ねた食堂を設置して衛生的な場所で食事をしています。また、作業終了後は従業員はシャワーで汗を流し、使用した作業衣は洗濯するなど従業員の衛生と健康を配慮して清潔な作業場の環境維持に努めています。(写真は千葉工場の例)



洗濯場



休憩室兼食堂



シャワー室

特定フロンの回収



平成14年4月1日から施行されている「特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律(フロン回収破壊法)」に基づき、フロン類回収業者として東京都に登録し、産業用廃棄物として回収した業務用冷凍機等の冷媒として使用されているフロンが、機器の廃棄に伴って大気中に放出されることがないように、適正に回収して破壊処理施設に引き渡すことにより、温暖化防止に協力しております。



グリーン購入

購入の必要性を十分に考慮し、できる限り環境負荷が小さい製品やサービスを、環境負荷の低減に努める事業者から優先して購入しています。



グリーン購入カタログ



エコペーパー

環境コミュニケーション

従業員教育

当社は、隔月に全社員を対象とした環境会議を開催し、今抱えている問題事項に関する指導や意見交換を重ねて、常に環境を考慮した事業活動を推進するために意識高揚を図っております。



事務所部門

来社されるお客様を明るく迎えられるよう、お客様の立場を考える優しい会社を目指して、定期的に接客対応教育を開催しています。

ヤード部門

安全第一での作業効率を上げるために、スキルアップを目指した多くの技能講習を進んで受け、資格取得をすることにより、お互いが切磋琢磨できるようなシステムを奨励しています。今年度は残念ながら、作業ミスによる小さな事故が何件か発生しておりますので、来年度は更なる安全操業を目指して、全員が5Sを身につけられるよう、緊急時対応訓練も加味した勉強会を予定しています。

運輸部門

安全運転がすべてに優先することを、安全会議で周知しております。過労・飲酒が起す事故の重大さを例をとって説明し、一人一人が会社の代表として車を動かしているという強い意識を持つように、優しい心での運転を指導しています。来年度はエコドライブを周知させるための社内講習会を予定しております。



事業関連資格者一覧

資格区分	人員	資格区分	人員
大型特殊	10	ガス溶接	8
ユンボ	31	アーク溶接	4
小型移動クレーン	16	運行管理者	2
牽引	8	整備管理士	1
玉掛	26	冷媒回収	3
ショベルローダー	2	建築物等の鉄骨の組み立て等作業主任者	1
高所作業クレーン	2	破碎りサイクル施設技術管理士	2
床上操作クレーン	4	危険物取扱者	1
5t未満クレーン	5	廃棄物管理責任者	2
不整地運搬車	1	公害防止管理者(大気1種、水質1種)	1
低圧電気取扱	1	機械製図作業二級	1
小型車両建設機械	2	第二種電気工事士	1
はい作業	2	ISO14001内部監査員	4
ISO14001IMS審査員補	1	(人数は延べ人数です)	



地域美化清掃

地域の環境保全を維持し、来社されるお客様が気持ちよくお帰りになれるよう、毎朝、周辺道路及び入口通路の美化清掃を行っています。



トピックス

東京事務所開設

平成 19 年 4 月より東京都港区芝に東京事務所を開設しました。営業部門及び、経営企画室と一部総務部門が活動を始め、新たな拠点として、お客様へのレスポンスタイムを短くすることができるようになりました。



千葉工場開設

千葉県富津市に、鉄・非鉄・プラスチックなどからなる混合スクラップの選別・中間加工処理を主とするリサイクル工場が 2008 年春には本格稼働を開始する予定です。混合スクラップ選別能力の高い機材を設置いたしますので、さらにリサイクル率を高め、可能な限り素材別の再生原料として、リサイクルルートに乗せていくことが可能となります。東京・京浜島と千葉の 2 拠点体制として広い範囲からの回収対応を目指します。



ガイドライン対照表

環境報告ガイドライン（2007年版）における項目

掲載ページ

基礎的情報		
(1)	経営責任者の緒言	2
(2-1)	報告に当たっての基本的要件	1
(2-2)	報告対象組織の範囲と環境負荷の補足状況	1
(3)	事業の概況	3,4
(4-1)	主要な指標等の一覧	1,3,4,12,13
(4-2)	事業活動における環境配慮の取組に関する目標、計画及び実績等の総括	9
(5)	事業活動のマテリアルバランス	12

マネジメント・パフォーマンス指標

(1-1)	事業活動における環境配慮の方針	6
(1-2)	環境マネジメントシステムの状況	7
(2)	環境に関する規制の遵守状況	13
(3)	環境会計情報	-
(4)	環境に配慮した投融資の状況	-
(5)	サプライチェーンマネジメント等の状況	8
(6)	グリーン購入・調達状況	14
(7)	環境に配慮した新技術、DfE等の研究開発の状況	10,11
(8)	環境に配慮した輸送に関する状況	9,12
(9)	生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	-
(10)	環境コミュニケーションの状況	15,16
(11)	環境に関する社会貢献活動の状況	16
(12)	環境負荷低減に資する製品・サービスの状況	10,11

オペレーション・パフォーマンス指標

(1)	総エネルギー投入量及びその低減対策	9,12
(2)	総物質投入量及びその低減対策	9,12
(3)	水資源投入量及びその低減対策	12
(4)	事業エリア内で循環的利用を行っている物質等	9,12
(5)	総生産品生産量又は総商品販売量	12
(6)	温室効果ガスの排出量及びその低減対策	12
(7)	大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	12
(8)	化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	12
(9)	廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	9,12
(10)	総排水量及びその低減対策	12

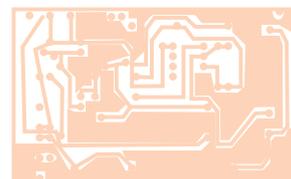
環境効率指標

(1)	環境配慮と経営との関連状況	5,10,11,12
-----	---------------	------------

社会パフォーマンス指標

(1)	社会的取組の状況	14,16
-----	----------	-------

第三者審査報告書



当社は環境報告書の信頼性向上のため、外部審査機関(株)日本環境
認証機構(JACO) の第三者審査を受けました。

以下に環境報告書第三者審査報告書を掲載します。



環境報告書第三者審査報告書

東港金属株式会社
代表取締役社長
福田 隆 殿

2007年12月10日

株式会社日本環境認証機構
代表取締役社長
伊藤 信久

株式会社日本環境認証機構(以下、JACO)は、東港金属株式会社(以下、東港金属)の依頼に基づき、東港金属の責任において作成された「環境報告書2007」(以下、「報告書」)に対して、独立した立場から審査を行いました。審査はJACOの審査基準*を基本に東港金属と合意した手順に則り審査を行いました。

*環境省「環境配慮促進法」、「環境報告書ガイドライン2003年度版」および東京都環境局「環境報告書ガイドライン」を参考

【審査の目的】

東港金属における2006年度の環境保全活動の実績に関する以下の事項を検証し信頼性の向上を図ることであります。

- (1) 報告書の記載事項に関する網羅性および妥当性の確認。
- (2) 環境パフォーマンスデータ(以下、データ)の発生から計測、収集、評価、関連組織(部署)への伝達、報告書への掲載までのプロセスの妥当性および当該データの信憑性の確認。
- (3) 東港金属の環境マネジメントシステムの仕組みとその運用状況および関連法規制の順守履行状況の確認。

【審査内容の概要】

区分	確認事項
定性項目	(1) 環境配慮促進法、環境報告書の記載事項等に基づく記載内容 (2) 詳細確認項目: ※中期環境保全計画、フロン回収
定量項目※	(1) インプット : 電気、水道、軽油使用量、廃棄物、金属スクラップ等受入量 (2) アウトプット: 金属類、プラスチック類等 排出(リサイクル、処分)量

※詳細確認審査(現物確認、機能確認等)をしたデータに を付記

【結 論】

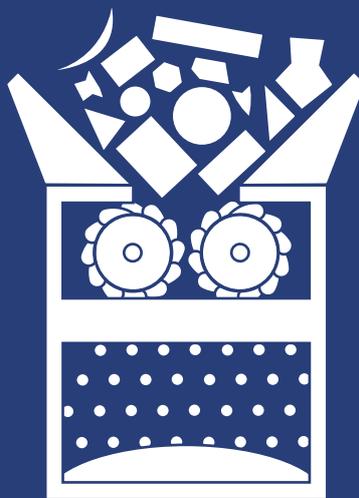
東港金属は今回が初めての環境報告書発行です。記載内容は環境配慮促進法に準拠し、リサイクル及び産業廃棄物の収集運搬・中間処理を主とする企業の環境報告書として適切、妥当と判断します。特に、東港金属の環境方針にもあるように、東港金属が資源循環型社会において、事業を通じて地球環境保全に貢献しうること認識し、関連事項の報告がされています。また、ISO環境マネジメントシステムをベースとし、環境パフォーマンスの「目標」が着実に達成されていること、報告書記載事項についてもその妥当性、信憑性を評価します。更に報告書の信頼性を高めるため、第三者審査を実施されていることを評価致します。

審査結果は以下の通りです。

- (1) 報告書の記載内容はJACO審査基準に適合し、網羅性および妥当性は適切です。
- (2) データの発生から計測、集計、評価、報告までのプロセス上の内部統制はインタビュー、データ分析、関連資料の照査および現地確認等の結果、適切と判断します。

なお、審査の過程において得られた状況等から東港金属の環境保全活動の一層の向上のために以下の提案を付記します。

- (1) 東港金属が行っている、環境保全活動を、より多くの社内外のステークホルダーにご理解いただくために、コミュニケーションツールとして報告書の活用度を高めるとともにステークホルダーの意見を反映した事業の展開を期待します。
- (2) 業務そのものが環境配慮活動と大きく関わりを持つ企業として、東港金属の業務を行う全拠点を報告書の対象範囲となるよう拡大し、東港金属全体の環境パフォーマンスの更なる向上につなげていくことを期待いたします。



東港金属株式会社 <http://www.tokometal.co.jp>

本社

〒143-0003 東京都大田区京浜島 2丁目 20番 4号

Tel: 03-3790-1751 Fax: 03-3790-1755

東京事務所

〒105-0014 東京都港区芝 2丁目 7番 2号芝園ビル 4F

Tel: 03-5730-0880(代) Fax: 03-5730-0440

千葉工場

〒293-0011 千葉県富津市新富 52-1

Tel: 0439-80-4545(代) Fax: 0439-80-4646



古紙含有率70%の環境対応紙を
使用しています



地球に優しい大豆油インキで印刷しています